

特定区域の区域及び事業活動の内容（新発田市）

1 特定区域の区域

（1）区域

新発田市全域



（参考：新発田市地図情報サービス）

（2）当該区域の特性及び区域設定の理由

新発田市は、面積 533.11k m²、人口約 9 万 2,600 人で、越後平野（新潟平野）の北部に位置し、県都新潟市に隣接している。白砂青松と形容される美しい海岸や南東には豊かな自然景観に恵まれた山岳地帯を有するほか、加治川によって潤う肥沃な土地により県内有数の良質米コシヒカリの産地である。

市では、有機農業によるブランドストーリーの構築を目指すため、令和 4 年度から、商工業や観光業と連携した「オーガニック SHIBATA プロジェクト」を始動し、「有機米の産地づくり」を進めているところである。一方で、令和 5 年度の有機 JAS 認証米の作付面積は、約 9.5ha であり、市内の水稻作付面積の約 0.12%と、非常に割合が小さい状況である。

そこで、市内全域を特定区域として設定し、関係機関連携の上、担い手等の課題を抱える中山間地域を中心に取組を進め、成功事例を他の地域に広げていくことで、有機 JAS 認証米の作付面積の拡大を図り、当市農業の課題解決を進めていくとともに、持続可能な農業の実現につなげていく。

2 特定環境負荷低減事業活動として求められる事業活動の内容

(1) 活動類型

有機農業による生産活動

(2) 特定環境負荷低減事業活動の内容

① 事業推進

新発田市のほか、有機農業に取り組む生産者、将来有機農業の担い手となり、かつ、リーダーとなる地域おこし協力隊、有機米の流通及び販売を担うJA や商系集出荷業者、技術的な支援を行う新発田農業普及指導センター、高い専門性と知見により技術革新を図る長岡技術科学大学、有機米の加工業者及び消費者等によって構成する新発田市有機農業産地づくり推進協議会を中心に事業を推進し、ペレット化堆肥の使用や輸出促進等を通じて、生産方式と流通方式の共通化を図る。

② 生産

これまでの技術指導内容や新規生産者の経営分析等をまとめた事例集を活用し、研修会の開催等を行い、新規生産者を獲得していくことにより、有機農産物の作付面積の拡大を図る。また、長岡技術科学大学と連携し、除草用小型ロボットの開発を進め、スマート技術を用いた有機栽培の普及を行う。使用する資材については、市有機資源センターが生産する家畜ふんや食品残さ、もみ殻を原料とした堆肥をペレット化し、導入していく。

③ 流通

高付加価値化の観点から、有機 JAS 認証取得を推奨するとともに、協議会が米を主とした有機農産物を積極的に集荷し、輸出を行う業者との連携調整を行う。また、アメリカ・ヨーロッパ・香港における需要等を調査し、輸出促進を図り、販路拡大に取り組む。加工に関しても、有機米を原料とした加工品の開発を進め、流通の拡大を図る。

④ 消費

有機農産物の消費拡大に向け、関係団体などと連携し、講演会やイベントの開催などによるPR活動を行い、消費拡大につなげる。